

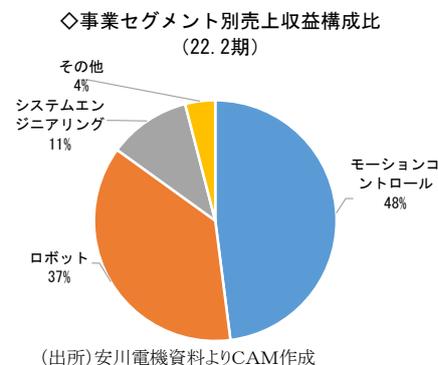
# 企業ニュース 安川電機

(東証プライム : 6506) <https://www.yaskawa.co.jp/>

作成者: 奥村義弘

## サーボ、インバータ、ロボットを軸に事業展開

1915年設立。「モーション制御」「ロボット技術」「パワー変換」をコア技術とし、サーボ、インバータ、ロボットなどを使ったソリューションを展開する。2017年に、新しいソリューションコンセプト「i<sup>3</sup>-Mechatronics (アイキューブメカトロニクス)」を始動させた。「i<sup>3</sup> (アイキューブ)」は、integrated(統合的)、intelligent(知能的)、innovative(革新的)の3つの「i」を意味する。データ活用による生産性の向上、高い品質の確保・維持、AIを活用した機械・設備の故障予知等による止まらないラインの実現といった、デジタルデータソリューションを提供する。仕向け先別売上収益構成比(22.2期)は国内31%、米州16%、欧州15%、中国27%、中国除くアジア11%。



## ロボットを中心に旺盛な受注が継続

22.2期の連結業績は売上収益が4,791億円、前期比23%増、営業利益が529億円、同94%増。通期計画を売上収益で59億円、営業利益で51億円下回った。第4四半期(12-2月)はモーションコントロールが前年同期比13%増収、同34%増益。ロボットは同19%増収、同105%増益。前年同期比で高い伸びとなったが、モーションコントロールは部材調達難の影響が大きかった。一方、受注高は第3四半期(9-11月)比で7%増。ロボットが同25%増とけん引。モーションコントロールも1%減と高水準を維持した。ロボットでは、EVなど自動車に加え、半導体や一般産業からの旺盛な需要を享受。モーションコントロールでは、5Gや半導体、新エネ関連の需要が旺盛である。

23.2期の会社計画は売上収益が5,250億円、前期比10%増、営業利益が720億円、同36%増。年間の1株当たり配当金は64円と12円の増配を予定する。需要はグローバルで良好な環境が続くとみる。部材調達難で生産制約は続いているが、会社側では緩やかな解消を想定する。上海でのロックダウンなど新たなリスク要因もあるが、旺盛な需要に変化はないとみる。部門別営業利益はモーションコントロールが453億円、同19%増、ロボットが264億円、同53%増を計画している。

## [株価動向・投資判断]

部材調達難による生産制約は続いており、生産状況の変化には注意したい。一方、中長期の旺盛な需要を背景に、高い成長期待は維持されよう。

<6506 安川電 業績:IFRS>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
21.2	389,712 (▲5)	27,180 (12)	27,172 (10)	18,927 (22)	72.4	24.00
22.2	479,082 (23)	52,860 (94)	55,378 (104)	38,354 (103)	146.7	52.00
23.2 予	525,000 (10)	72,000 (36)	74,000 (34)	52,500 (37)	196.9	64.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価(2022/4/8)	4,550 円
年初来高値(高値日)	5,790 円(22/1/4)
同 安値(安値日)	4,230 円(22/3/9)
予想 P E R (23.2 予)	23.1 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,114.1 円
P B R	4.08 倍
予想配当利回り	1.41 %
(1株当たり配当金年64.00円)	
R O E (22.2)	14.3 %
発行済み株式数	26,669 万株